

2010年度の研究開発費及び研究開発施設費に対する連邦政府負担、前年度比1.5%の微増
(3月26日)

米国科学財団 (National Science Foundation : NSF) が発表した報告書「2010年度の連邦政府研究開発費及び研究開発施設費負担は微増 (Federal Research and Development and R&D Plant Obligations Show Modest Growth in FY 2010)」のデータによると、2010年度の研究開発費及び研究開発施設費に対する連邦政府負担は、前年度比1.5%増の1,470億ドルであった。中でも増加率が最も高かったのは研究開発施設費負担で、前年度比81.3%にあたる30億ドル増の66億1,300万ドルであった。増額分30億ドルのうち、11億ドルは2009年米国再生再投資法 (American Recovery and Reinvestment Act of 2009 : ARRA) により拠出されたもので、ARRAによる助成総額は、2010年度の連邦政府負担額総額1,470億ドルの6.2%にあたることも明らかにされた。なお、2010年度の研究開発費だけの連邦政府負担を見ると、前年度比1.4%減の1,259億ドルで、このうちARRAによる助成は59億ドルであったと報告されている。

本報告書は、<<http://www.nsf.gov/statistics/infbrief/nsf13317/>>から閲覧可能。

National Science Foundation, National Science Foundation Data Demonstrate Modest Research and Development Growth in Fiscal Year 2010

http://www.nsf.gov/news/news_summ.jsp?cntn_id=127413&WT.mc_id=USNSF_51&WT.mc_ev=click